

西条盆地で新たに確認した水草2種:ミズニラとオオフサモ

下田路子

(広島大学理学部)

今年の全国集会で、広島県西条盆地の水草について発表した(下田 1987)が、その後の調査で新たに2種の水草の生育を確認したので報告する。

ミズニラ

山陽本線八本松駅の北東約500mの所にある小さな池にミズニラが生育しているのを、1987年9月16日に確認した。アカマツ、コナラ、アラカシ、スギ、ヒノキなどの高木が、面積約2aほどの小さな池を取り囲んでいるので日当りは良くない。池の中央部にはヒツジグサとコウホネが、また岸にはカンガレイとクログワイが生育していた。ミズニラは水深10-20cmの水辺に点々とあり、5株を確認した。底質は砂や礫で固く、踏んでも足が埋まることはなかった。2株を採取し、そのうちの1株は栽培中である。もう1株を、国立科学博物館の中池敏之博士にお送りしたところ、ミズニラにまちがいなしの御返事をいただいた。

ミズニラは、広島県では大変まれな植物の一つである。竹田(1987)の「広島県のシダ植物」では、高田郡八千代町の池が標本の採集地としてあげられているだけである。

なお、今回ミズニラを見つけた池のすぐそばで、山を削って造成工事が行われており、この池がいつまでこのままの状態であるかはわからない。

オオフサモ

西条町下見にある森永池(下田 1983: No.22の池)では、1980年と1981年にガガブタがたくさん生育していた。西条盆地ではガガブタは大変稀で、しかも、優占種となっているのは森永池だけなので、この池を全国集会の見学地にしたいと考えていた。ところが今年の7月に行ってみると、ガガブタは全くなくなっていたので、森永池

の見学はとりやめることにした。

同行された三上幸三氏が、水中に浮かぶひとかたまりのフサモ科の植物を、オオフサモではないかといわれた。しかしこの日は土手の上から見ただけで、フサモかオオフサモか、はっきりとはわからなかった。これを確認するため、10月13日に再び森永池に行ってみた。池の水位は7月よりも約1m下がっていた。水中にはジュンサイとヒシが優占し、そのほかヒツジグサ、タヌキモ、トリゲモ、イトモが生育していた。水がひいた南岸の数個所に群生していたのは、フサモよりずっと大きいオオフサモであった。完全に乾いた所でも、青青として元気である。その生命力の強さと、濃い緑の葉とミミズのような茎をもつ大きな植物体とを見ていると、何とも不気味な気持ちが出てきた。

西条盆地の水草相における帰化水草の割合は、栽培されているスイレン類を除けば、今のところは大変少ない。これまでにオオカナダモが3個の池で、またフサジュンサイが1個の池で確認されただけである(下田 1987)。西条盆地では土地開発が急速に進みつつあり、池をとりまく環境も日々変わっている。これにともない、将来これらの帰化水草が、しだいに在来の水草にとってかわるかもしれない。

引用文献

下田路子. 1983. 広島大学統合移転地およびその周辺部に分布するため池の水草. 植物地理・分類研究, 31: 46-57.

———. 1987. 西条盆地(広島県)の溜池の水草. 水草研究会報, 29: 5-7.

竹田孝雄. 1987. 広島県のシダ植物. 560pp. 博新館, 広島.